



馬術部

有終の美を飾りました

全国日本高等学校馬術競技大会で全国制覇4回という輝かしい実績を誇る菊池農業高校馬術部。今年も全国大会で上位の成績を目指していましたが、新型コロナウイルスの影響で大会は中止になりました。「練習できない期間があったので調整が難しかったが生徒たちはよく頑張ってくれた」と塚本親治監督は話します。代わりに開催された県独自の大会では2部門で優勝。総合優勝も果たすなど優秀な成績を収めました。



主将 田上斗真さん
練習できない期間があり不安でしたが総合優勝できて良かったです。下級生にはインターハイ入賞を目指してほしいです。



塚本親治監督
今年はインターハイ上位を狙える実力があつたので残念でしたが、みんな力を出し切ってくれました。



ソフトテニス部

”好き”の気持ちで乗り切る

「休校前の体力と技術を維持できるように、自宅でもできるトレーニングを実践していました」と話す2年生の堀田花実さん。再開後、部員たちは休むことなく練習に参加。「テニスを好き」という気持ちがそうさせたのでしょね」と伊藤正一監督は笑みを浮かべました。総体代替試合では予選で敗退しましたが、「試合後も生徒たちは清々しい表情をしていて、コロナ禍でも良い思い出になったのでは」と伊藤監督は話しました。



主将 谷侑将さん
「勝ちたい」という気持ちで休校中も家でトレーニングを続けました。仲間と練習を再開できたときはうれしかったです。



伊藤正一監督
完璧な状態で練習に臨めるようコートを整備し、再開を待ち望みました。笑顔で体を動かす姿を見てほっとしましたね。

青春∞無限大

「今」を止めないー

新型コロナウイルス感染症の影響は高校生にも及びました。学校の休校や部活動、大会の中止が相次ぎ、悔しい思いを味わった人もいます。

しかし、高校生たちはこの状況にもめげず、前を向いています。コロナの渦中でも頑張る高校生の今を追いました。

【問い合わせ先】

市長公室 ☎0968(25)7252

予想だにしなかった
大会中止

今も世界各地で影響が出ている新型コロナウイルス感染症。日本でも影響が広がり、3月には政府による休校要請で菊池高校、菊池農業高校、菊池女子高校の市内3校も休校になりました。

各高校で登校日を設けたり、分散登校を行ったりするなどの対応がとられ、部活動も中止に。大会や文化祭に向けて、思うように練習ができない日々が続きました。その中で決まった全国高校総合体育大会（インターハイ）や甲子園の中止、全国高等学校総合文化祭の内容の変更は、高校生に大きな影響を与えました。

「本当に中止になるとは思わなかった」「ショックで言葉が出ない」と語る高校生たちははそれでも、6月の学校再開後は仲間とともに部活動に打ち込み、前を向いて進んでいます。



菊池女子高等学校



主将 石橋利采さん
今の部員は全員、高校からバトンを始めた若いチームです。部員を引っ張っていただけるように頑張っていきたいです。



米岡美千代監督
全体練習ができない期間がありました。みんな努力を続けてきました。大会では自信をもって演技してほしいですね。

悔いのないように練習を
今年度は県高等学校総合文化祭が中止。新型コロナウイルスの影響で地域のイベントや大会など、発表の場がほぼ全てなくなりました。目標がなくなり、モチベーションを保つことが難しい中、部員たちは各自で自主練習に励みました。「最後の大会に向けて悔いのないように練習したい」と主将の石橋利采さんは意欲をのぞかせます。今は12月に開催される2020JapanCupに向けて、部員一丸となって練習に全力を注いでいます。

バトントワリング部



菊池高等学校



主将 松岡聖真さん
春・夏の甲子園中止は悔しかったけれど、部員をまとめ、代替大会に臨みました。後輩には甲子園を目指してほしいです。



渡邊和雄監督
コロナの影響下でも、仲間と一緒に野球ができたことは人生の財産。この経験をこれからも生かしてほしいですね。

手探りでも挑む
「これまでとは違い、実践的なものが見えにくかった」と語るのは渡邊和雄監督。中止になった甲子園に代わり開催された、県独自の大会に臨みましたが、3地区に分かれ、各校が地区の頂点を目指すこの大会では、菊池高校は城北地区の2回戦で有明高校と対戦。1対10と敗れましたが、勝った有明が城北地区の頂点に。「有明に勝つていれば」と監督は苦笑いを浮かべました。今は1・2年生を中心に日々の練習に励んでいます。

野球部



主将 松本佳倫さん
最後の大会なので全力で大会に臨みました。来年は主将を中心として全国を目指して頑張してほしいです。



次期主将 西萌々子さん
今年は団体戦がなかったので3年生と一緒に出場できず残念でした。これからは主将として部員を引っ張っていきます。

悔しさをばねに
「全国高校総合体育大会の中止が決定したときは、泣いている子どもたちに何と声をかけていいかわかりませんでした」と語るのは緒方希監督。休校中は外部との接触を断ち、細心の注意を払って自主練習を行いました。県独自の大会では、熊本の頂点を目指して、43人の剣士が熱闘を展開。大賀茉莉奈さんが2位、松本佳倫さんが3位と優秀な成績を残しました。今は1・2年生を中心に練習に取り組んでいます。

剣道部



主将 青木結菜さん
ボートに乗ることができない期間は部員同士で励ましあいながら練習しました。下級生には全国で活躍してほしいです。



香月俊彦コーチ
入学時は全員未経験者でしたが、よく最後までついてきてくれました。この経験を次のステージへ生かしてほしいですね。

最後まで全力で
昨年度、全国高等学校総合体育大会に出場しているボート部。今年も全国を目指して練習に励んでいましたが、新型コロナウイルスの影響で大会は中止に。主将の青木結菜さんは「大会があるかどうか分からない中でモチベーションを保つことが難しかった」と振り返ります。全体練習ができない期間は体幹を鍛えたり、陸上トレーニングをしたりして、県独自の大会に臨みましたが、入賞はできませんでしたが、最後まで全力で走り抜きました。

ボート部



青春 ∞ 無限大

